

けあとも

発行 株式会社
ケアサービスとも
令和元年8月
64号
文責 海老根

事業所紹介

今回は株式会社ケアサービスともの事業所として最初の施設となった「ともの家」です。

開設場所は現在の「在宅医療ケアとも」の建物を小規模多機能型居宅介護事業所として開設しました。

それまでは訪問介護事業とケアマネ事業を運営していく中で、ご利用者を最期まで看ていくには、訪問介護のご利用者の介護度が高くなってくると、基本的には施設入所か体調不良で入院して、そのまま退院できなかつたりという形が多かつたのですが、単身の方で「入院はいや・施設入所もしたくない」という意思の固いご利用者への対応を、訪問職員会議や担当者会議で検討して、「いよいよの時は訪問のヘルパーさんが毎日交代でご利用者宅に泊まろう」ということになり、そうした形でお二人お看取りした経験があまりありません。

そうした経験から社内では、「ご利用者が最期まで過ごせる場所があるといいよね。」という

声が上がってきました。

その課題を解決する方法として浮かび上がったのが、当時海老根の自宅であった、南花畑4-35-10の建物を改修して小規模多機能型居宅介護の運営ができないかということでした。もともとは建売住宅であったものなので介護施設としてはそのまま使うわけにはいかず、小規模多機能の基準に合うように改修が必要でした。

その改修にあたって、解決すべき大きな課題として①日中のご利用者を受け入れるために必要なホールの面積の確保、②外部の道路から建物内に車椅子の方が入るための勾配の緩いスロープの設置、③室内で1階と2階を行き来するための段差を解消するためのエレベーターの設置、の3点が大きな課題として浮上してきました。この課題を解決するために小規模多機能施設を何か所か見学させてもらいました。



建物の前は区画整理前で、じゃりの駐車場でした。

その結果わかったのは、既存建物の改修は一律の対応は難しく、もともとある建物をいかに基準に近づけるという観点で取り組むしかないということでした。

そこで区内第1号の小規模多機能施設を開設した「くまハウス」の大久保さんにご紹介いただいた設計事務所に相談して、3点の重点課題の解消を含めて検討していただいて出来たのが今の「在宅医療ケアとも」の建物です。

平成18年8月に小規模多機能型居宅介護「ともの家」はオープンしました。

当時は訪問介護から異動した職員と小規模開設のために新たに雇用した職員と役員が一緒になって日勤、夜勤、送迎等の業務をこなしていました。それでも不足する職員配置を埋めるべく、連続勤務もみんなで協力して普通にこなしていました。

そうした勤務も今では懐かしい思い出の一つとなっています。現在のともの家は平成27年に現在の花畑1丁目に移転しましたが、その直前の状況は、1階のホールがご利用者の重度化により、車椅子のご利用者が増えたため職員とご利用者がひしめき合うような状態になってしまい、何とかならないかという声が上がってきて、移転の場所を探し始めたのが平成25年ころの事でした。

そのあたりのことを、8月からともの家のから訪問介護に異動になった川原さんにお話をうがいました。川原さんのお話は次号で掲載します。



ともの家でのタクティールケア研修会の様子。
移転前は1階のホールの日中は職員・ご利用者でひしめき合っていました。

南花畑にも技能実習生

8月3日夕方に南花畑4丁目町会の町会盆踊りが南花畑の下沼公園でありました。「在宅医療ケアとも」のご利用者の方と「一緒に行ってテントの中で飲み物・食べ物を出していただいで、樽の方で踊っている様子を一緒に観ていました。

一回目の踊りの後のプログラムで「おおとり神社」の氏子会の皆さんの太鼓の演奏やプロの歌手のカラオケ等を楽しんでいると、おなじテントの

中に外国人の若い方が数人いるのが見えました。日本人の年配の方と言葉を交わしながらテントの中で飲食をしていました。

気になったので、傍に行つて年配の方に声を掛けました。すると、南花畑4丁目にある建築会社の皆さんで、若者はフィリピンから来た技能実習生だということがわかりました。介護業界だけでなく建築業界も人手不足であることは聞いてはいましたが、南花畑の建築会社にまで、技能実習生が浸透しているとは驚きました。

実習生の一人は「4月から日本に来た。」と日本語で話してくれました。

町会の盆踊りも国際文化交流の一助になるのだと感じた一幕でした。



下沼公園での盆踊り。おおとり神社氏子会の皆さんの太鼓の演奏。 接待のテントのなかでのご利用者さん。

夏風邪に注意



8月の始めのある夕方なんとなく喉の痛みを感じたまま、寝てしまったのですが、明け方になって喉の痛みで目が覚めてしまいました。

ちよつと熱もあるようなので、時間を見て訪問介護の担当者に連絡を入れて、その日予定していたご利用者の訪問予定を代わってもらいました。

幸いその日の夕方までには症状はよくなりましたが、担当者との連絡の会話の中で、「のどの乾燥に注意しましょう」ということがありました。

冬は空気が乾燥しているので、火事に注意とか、風邪に注意しましょうなど、テレビ・ラジオでも注意喚起がありますが、ムシムシした高湿度の夏でも冷房をかけた室内は、結構乾燥するので、寝るときにエアコンをかけたままだと、のどの乾燥が原因で、夏風邪になる危険があるということに気づかされました。

一歩外に出ればムシムシして湿度の高い夏ですが、冷房の効いた室内では温度だけでなく乾燥のし過ぎによるのどへの影響にも注意しましょう。